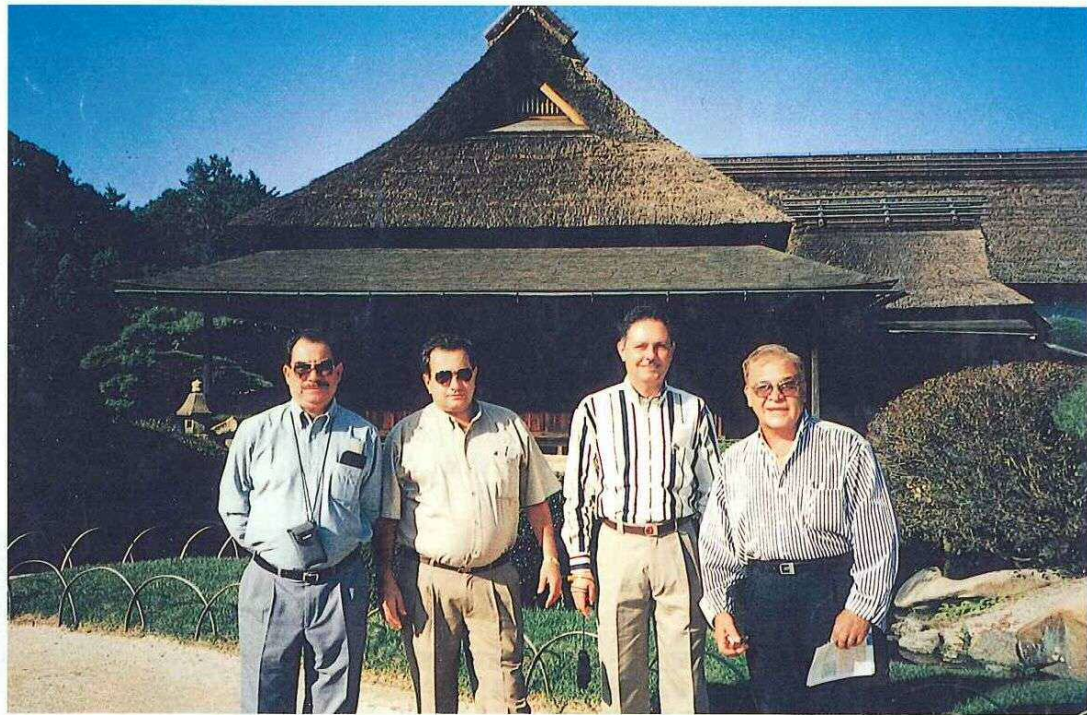




# ふねあいのひろば

第14号



10月21日～27日 岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念『サンホセ市代表団』来日

## 新たな友好の歴史を築くために

会長 小坂 淳 夫

会員の皆様方におかれましては、平素から本協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、本年1月に岡山市とサンホセ市は姉妹都市締結30周年を迎えました。これを記念し、サンホセ市から代表団の受入れや技術研修生2名の受入れ、サンホセ市においての岡山市写真展の開催等、様々な記念交流事業を展開してまいりました。また、サンホセ市の日本友情庭園建設にあたっての募金へのご協力を呼び掛けたところ、大変多くの皆様にお応えいただき、誠に感謝しております。本年3月に、募金の一部は岡山市木であるクロガネモチの苗木と併せてサンホセ市に寄贈いたしました。本年11月には、岡山市からもサンホセ市への親善訪問団の派遣を計画しておりますので、これを機に、新たな友好関係の歴史がはじまるものと期待しているところであります。

今年度の本協議会の事業といたしましては、姉妹・友好都市との技術研修生相互派遣、プロブディフ市からの子供親善訪問団の受入れ、友好交流サロンの運営、アジア各国からの奨学生の受入れ、ボランティア制度の運用、また、今回から募集対象を中学2年生と3年生に拡大いたしました子供海外派遣事業など、様々な分野での交流事業の充実を図っております。

今後とも、会員の皆様のお力をお借りしながら、本協議会の活性化と国際交流事業の積極的な推進を図ってまいりたいと思っておりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念

# サンホセ市代表団来日

岡山市とサンホセ市の姉妹都市締結30周年（昭和44年1月27日締結）を記念して、アジャン・デルガド・マロト サンホセ市議会議長を団長とする「サンホセ市代表団」一行4名が、昨年10月21日から27日まで来日されました。一行は、10月23日から25日までの3日間岡山に滞在し、様々な行事への参加や各方面の視察などを行い交流を深めました。



岡山市表敬訪問



### 歓迎レセプション開催

協議会会員、サンホセ交流協会会員、平成元年に派遣した20周年記念親善訪問団団員など約100名が集った。まず、琴による両国国歌の演奏に始まり、南米音楽、和太鼓のアトラクションが行われた。また、安宅市長からデルガド議長へ、市民から募った日本友情庭園建設に対する募金と岡山市木のクロガネモチの苗木の目録を贈呈した。  
(今年3月、募金の一部とクロガネモチの苗木30本を贈った。)



### 「岡山あいフェスティバル'98」 開会式参加

デルガド議長が団を代表してテープカットを行った後、保育園児の鼓笛隊演奏などのオープニングイベントを楽しんだ。また、会場内の各国ブースを見学し世界の料理を堪能した。

### 「岡山市・サンホセ市姉妹都市 締結30周年記念展」見学。 (於：西川アイプラザ展示コーナー)



### 交流協議

30周年記念岡山市訪問団派遣及び日本友情庭園建設、サンホセ市への中学生派遣などについての協議が行われた。



後楽園視察



足守保存地区視察



岡山ふれあいセンター視察



### 京都視察

[写真は金閣寺(左)と清水寺(右)]



## サンホセ市から 技術研修生来岡

サンホセ市からの研修生として、リセス・ロレーナ・ロメロ・バルガス氏とエリアシブ・ファハルド・ヴァンデル・ラート氏が来岡されました。ロメロ氏は、岡山市の防災・消防関係課等で自然災害及び消防についての研修を行いました。また、ファハルド氏は岡山大学医学部で超音波についての研修中です。

氏名 Lisseth Lorena Romero Vargas  
(リセス・ロレーナ・ロメロ・バルガス)  
研修先 岡山市総務局防災対策室  
消防局等関係課  
研修内容 自然災害・消防  
職業 サンホセ市自然災害課コーディネーター  
(地質学者)  
研修期間 平成10年11月4日～11月24日



下水設備の概要の説明を受けた後、下水管工事現場を見学(写真一番手前)

台風10号の被害地区を視察  
▼(写真一番左)



氏名 Eliasib Fajardo Vander Laat  
(エリアシブ・ファハルド・ヴァンデル・ラート)  
研修先 岡山大学医学部産科婦人科学教室  
研修内容 超音波  
職業 サンホセ市メキシコ病院内科医  
研修期間 平成11年1月7日～6月29日予定

## サンノゼ市から 専門家受入れ

岡山市とサンノゼ市が平成4年度から実施している専門家相互派遣により、今回、サンノゼ市からボランティア活動の専門家としてドウェイン・A・ハーン氏が来岡されました。ハーン氏は、市内のボランティア関係機関や中学・高校などを訪問し、実際にボランティア活動に参加したり意見交換などを行い、交流を図りました。

氏名 Dwayne A. Hearn  
(ドウェイン・A・ハーン)  
専門分野 ボランティア活動  
職業 サンノゼ市職員  
(コミュニティー・コーディネーター)  
受入期間 平成11年3月19日～4月3日

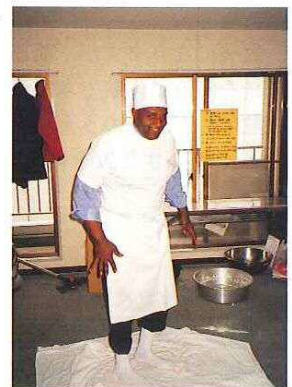


城東高校を訪問し、生徒達にアメリカのボランティア制度や活動を紹介



リユースプラザ岡山で、牛乳パックを利用したリサイクルおもちゃづくりを体験

手打ちうどんづくりに挑戦





## ◆◆◆◆◆ 第3回プロブディフ市技術研修生来岡 ◆◆◆◆◆

1月10日から3月4日まで、プロブディフ市からズラツカ・クラスティヴァ氏が来岡されました。プロブディフ市役所に勤務しているクラスティヴァ氏は、岡山市役所国際課での研修を中心に、また、福祉関係の施設や学校なども訪問しました。



氏名 Zlatka Krasteva  
(ズラツカ・クラスティヴァ)  
研修先 岡山市総務局市民生活部国際課他  
研修内容 国際交流事業及び福祉関連事業  
職業 プロブディフ市役所職員(市長室勤務)  
研修期間 平成11年1月10日～3月4日

### ユニークな経験

#### ズラツカ・クラスティヴァ

今回私は岡山市とプロブディフ市の技術研修生相互派遣のプログラムで来岡しました。岡山市での研修期間は1999年1月10日から約2か月でした。プロブディフ市役所市長室で3年間働いていますが、一番重要な来岡の目的は岡山市の福祉制度を調査することであり、研修中に3つのことを学びました。

第一に学んだことは、国際交流は私の携わっている仕事であり、プロブディフ市と25年間以上姉妹都市関係にある岡山市国際課の職員と会うことができたということです。両市の子供海外派遣と技術研修生プログラムの将来について話ができて、国際交流事業と岡山市の国際貢献について話をすることができました。

第二に、研修を通じて岡山市役所の組織と役割について理解できたことです。福祉総務課、中央福祉事務所、社会援護課、女性政策課、高齢者福祉課、市民生活課、家庭児童課の専門家・職員の方々と話し合いました。皆さんにお忙しい中を詳しく仕事について説明していただき、私の質問に親切に答えていただきました。福祉プログラムを実際に理解するために会陽の里という老人ホーム、岡山ふれあいセンター、西大寺ふれあいセンター、善隣館、仁愛館、児童館、学校などの施設を訪問しました。

最後になりますが、前述のことと同様に日本の文化と伝統を身近に体験できたということも本当に素晴らしい経験でした。そのうえ、すてきな日本人の方々と交流でき多くのよき友人を得たことを大変嬉しく思います。



岡山市社会援護課にて老人保健制度や福祉医療についての説明を受ける



養護老人ホーム・岡山市会陽の里を訪問  
施設の概要について説明を受け園内を見学



馬屋下児童館を訪問



清心中学校・清心女子高等学校を訪問し  
授業を見学  
また学校の概要や特色の説明を受ける



## ◆◆◆◆ 第9回洛陽市技術研修生帰国 ◆◆◆◆

平成9年11月に来日し、岡山理科大学で研修を受けていた第9回洛陽市技術研修生の3名が、一年間の研修期間を終え、昨年11月3日に帰国されました。

**王 軍**（研修先：岡山理科大学工学部機械工学科）

光陰矢の如し、一年が慌ただしく過ぎ楽しい研修生活が終了しました。岡山を離れようとする今、名残惜しい気持ちで一杯です。

岡山は美しい町で、優美な環境と気候もよく物産も豊富です。そして、岡山市民は優しく友好的でした。また友好交流サロン等での日本文化紹介講座や日本語講座は、私達に学習と交流の場と機会を提供してくれました。

私の専門は機械設計です。岡山理科大学でご指導いただいた滝先生は豊富な知識をお持ちでしたので、先生のご指導の下、多くの知識を学ぶことができました。そして先生の勤勉で仕事に対する責任感ある姿勢は深く印象に残っております。また実験やゼミ等を通して、日本の大学教育についても知ることができました。

岡山市役所、市国際課及び岡山市国際交流協議会は私達の生活面や研修面において良い環境を提供して下さい、また、市の主催する様々なイベントにも参加できました。例えば西大寺会陽、岡山あいフェスティバル等です。私達はこれらの活動を通して、日本文化の理解と世界各国の人々との交流ができ、とても有意義に感じました。市役所、市国際課並びに岡山市国際交流協議会の皆様に対し、ここに謹んで感謝の意を表したいと思います。

私達は帰国後も、中日両国また岡山と洛陽の友好交流に自ら貢献したいと思っております。



▲ 王 軍さん (左)

▼ 吳 銳さん (左)



▲ 張 建設さん (左)

**張 建設**（研修先：岡山理科大学工学部機械工学科）

岡山市は日本の内陸にあり、気候と自然環境も非常に良く自然災害が少ないので、農業、果樹栽培や手工業が非常に発達しており物産豊富な地であると同時に、“晴れの国”といわれ特に白桃、マスカットは国内でも有名な特産品です。このように素晴らしい町で一年間研修生活を送ることができ、非常に光栄に思います。更に岡山市民の中日友好活動に対する熱心さには心を打たれ、中日両国人民の友情は必ず“万古長青（いつまでも変わらず栄える）”に違いないと確信しました。

岡山での一年間で感じたことは、岡山市の国際交流事業が活発に展開されていることです。また開放された国際都市としての様相もすでに形成されており、将来重要な国際都市の一つとなると思いました。これを実現させるためにも世界各国の人々に岡山へ来ていただき、岡山を知ってもらいたいと感じました。

同時に、私達はまた中日両国民が多くの面においてこのようにまで似通った点、また異なる点を持ち合わせていることから、東方文化が造り出したともいえるこの相似する文化を背景に、両国人民の友好が促進し、21世紀へ向かって平和的に歩んで行くに違いない、としみじみ感じました。



## 第6回洛陽市派遣岡山市技術研修生帰国

洛陽市での一年間の中国語研修を終え帰国された、第6回岡山市技術研修生の3名に、洛陽市での勉強や交流の思い出を綴っていただきました。

### 大 辻 富実佳

例えば中国の人と話をしている、一方が楽しそうに話し、もう一方は楽しそうに聞いています。何の変哲もない光景ですが、そんな時、「喜怒哀楽などの基本的な感情はどこ国でも同じだ。」と私は感じます。

考えてみれば、これは当然のことで、私達が外国の小説や映画を見て、面白いと感じるのも、どの国かにかかわらず、人間にある一定の普遍的な感情が具わっているからでしょう。私もこのことを頭では判っていたつもりですが、実際、毎日生で感じるのは、新鮮な体験です。

私達が他国の人と接する時、もちろん言葉の障害や文化の違いは付いてまわります。しかし、国境や国籍とい

うものは、政治上の区切りにすぎないのではないのでしょうか。どうしたら人と気持ちよく付き合えるか、相手のことをより良く理解できるか、こうした問題に関してはどこの国でもあまり違いはないように思われます。



「牡丹園にて」(前列左)

### 高 杉 優 子

去年4月、初めて洛陽へ来た時の事が昨日起こった事のようにさえ思われるのに、あと2か月を残して私の研修も終わろうとしています。できる限り全力でやってきたとはいうものの、やり残した事も数多くあって、正直まだ帰国したくない心境です。

洛陽での私は、やっと言葉の分かり始めた子供のようなもので、何を見ても何を聞いても、常に何かしらの驚きと発見があり、笑いの絶えない毎を送りました。また、この研修を通じて語学ばかりではなく、中国料理の作り方、年中行事の過ごし方等、中国の人の温かさを直接感じながら多岐の方面に渡って見聞を広める事ができたように思います。こんなにも順調に研修生活を送れたのも、洛陽の皆さんが親切に大切に私達留学生を扱って

下さったおかげです。本当に心から感謝しています。

この先、故郷岡山と大好きな洛陽がより一層友好関係を深めていけるよう、今回の留学経験を生かし、微力ながら協力していきたいと思わずにはられません。そしていつの日か洛陽の方々に恩返しできる日が来る事を願っています。



「宿舎にて水餃子作りを習う」(中央)

### 船 越 元 洋

洛陽は名所旧蹟の宝庫です。この一年間私は毎週のように暇をみつけては市周辺の古墳などを見て歩き、現地の人とふれあう機会をもってきました。そこであうほとんどの人は、日常会話すら思うままにならない私との会話に実に辛抱強くつきあってくれ、なにか尋ねた時には私が理解するまで丁寧に説明してくれました。夏には50日という長い旅行をしましたが、それが無事終わったのも、このような人情味あふれる人々のおかげでした。

中国の発展はめざましく、洛陽もほんのわずかの間に随分と変化し、外国人にとっても暮らしやすくなりました。世界の目が中国に向いている今、今後の変化はいっ

そう激しいものになるのでしょうか。しかし、私に楽しい日々をあたえてくれた、あの優しい中国の人々の心だけはどうかこのままのこってほしい、と私は切に願っています。





## ◆◆◆◆ 第10回洛陽市技術研修生来岡 ◆◆◆◆

第10回洛陽市技術研修生の戴 涓涓氏が昨年9月18日に、張 自強氏並びに呂 化周氏が昨年11月3日に来岡され、研修受入れ先である岡山商科大学並びに岡山理科大学でそれぞれの専門分野の研修を受けています。



氏 名 戴 涓涓 (たい けんけん)  
 研 修 先 岡山商科大学商学部産業経営学科  
 研修内容 企業経営管理及び組織、企業経営計画分析  
 職 業 洛陽市旅游局職員



氏 名 張 自強 (ちょう じきょう)  
 研 修 先 岡山理科大学工学部機械工学科  
 研修内容 ファジーコントロール理論と応用、ロボット制御、工業生産自動制御  
 職 業 洛陽工学院電気工学部助教授



氏 名 呂 化周 (ろ かしゅう)  
 研 修 先 岡山理科大学総合情報学部社会情報学科  
 研修内容 産業（工業）管理とシステム工学、技術経済分析、品質管理  
 職 業 洛陽大学経済学部講師・学部副主任

## ◆◆◆◆ 第7回岡山市技術研修生 洛陽市へ派遣 ◆◆◆◆

第7回岡山市技術研修生が、応募者12名（女性8名、男性4名）の中から下記の3名に決定しました。3名は今年4月から一年間、洛陽市内の大学で中国語の語学研修を受けるとともに、日中の友好親善の橋渡し役となつていただきます。皆さん、体に気をつけて頑張ってください！



岡山大学文学部言語文化学科在学  
 さか ぐち まどか  
 坂 口 円

直接言葉を交わし触れ合うなかで、現在の中国の社会と、そこで暮らす人々の価値観や生活習慣について学び、相互理解を深めたいと考えています。加えて、岡山と洛陽の友好親善に関わる一員として両市の交流がより盛んになるよう力を尽くして行こうと決意しています。



なか どう とし こ  
 中 藤 季 子

この度、岡山市の技術研修生として洛陽市との友好交流活動に参加出来ることになり、非常に光栄に思っています。

中国をより良く理解するために、洛陽市に滞在する一年間、沢山の事を聞いて、見て、感じて、常に好奇心を持って充実した日々を送っていきたくと思っています。また、沢山の中国の人たちと、お互いの文化や習慣などについて話し合い、岡山の素晴らしさを伝えていきたくと思っています。



しら が とし え  
 白 髪 俊 恵

私のスピーチでまず何よりも申し上げたいのが、この技術研修生になってみたいという私の熱意を理解してチャンスを与えて下さった岡山市の方々と、これから一年間受け入れて下さる洛陽市の方々に、それぞれ厚くお礼を申し上げたいと思います。そしてこれから色々よろしくお願いします。

さてこれから洛陽で、私のまず取り組んでみたいことは、洛陽市の旅行ガイドを岡山市民に向けて作ってみる事です。旅行好きの私としては自分の趣味と取材を兼ねて、洛陽市を歩きまわりたいです。そして現地での自分の実際の生活の体験談や、そこに暮らす人々とのふれあいなども盛りこんで、楽しく読める一冊にしてみたいです。そしてそれがより多くの岡山市の人々の目にとまり、洛陽への興味と発見があることを期待しています。数年後、洛陽をまるで自分の近所のように旅する岡山市民がやたら増えているかもしれません。